

旅客機から見る世界の名山 美しい山々を国際線の機窓から楽しむ

須藤 茂 [編著]

イカロス出版株式会社
発売日：2021年3月29日
定価：1900円（税込み）
ISBN:978-4-8022-0977-9
25.7 cm x 18.3 cm x 1.0 cm
並製
192ページ

これまでの私は、年に2、3回ほど国際学会や学術調査のために航空機に搭乗し、海外に出かけることが通例であった。例えば、成田国際空港からヨーロッパ路線に搭乗した場合、10時間近く狭い機内^{とうりゅう}に逗留することになるが、その途中で機窓から見下ろすシベリア湿原やアルプス山脈の雄大な景観に圧倒されたことがしばしばある。しかし、昨年来のCOVID-19の世界規模の感染拡大に伴い、我々が海外に出かけることが制限されるようになり、本稿を執筆している2021年4月現在、その解決の目処はたっていない。そのためあって、在宅中にはテレビ放送で放映されている旅番組をたびたび視聴するようになった。しかし、これらの番組で使われている映像の多くもCOVID-19感染拡大以前に放映されたものが多く、新鮮な情報は余りないようにお見受けする。

我が国においては歴史的に見て多くの山は神聖な場所であり、見る者に畏敬の念さえも抱かせる信仰の対象として古くから崇められてきた。例えば、首都圏近郊の高尾山や秋田県の鳥海山は修験道の間であったことがよく知られている。一方、大学院生時代から北海道の日高山脈およびその周辺をフィールドにしていた私にとって、山は研究対象であり、年間50日近くも過ごす生活の間でもあった。

ところで、山の成因は大きく2つ知られている。一つは前述した高尾山や日高山脈のようにプレート運動もしくは地殻変動によって生じた山である。世界最高峰であるチョモランマ（もしくはサガルマータ）を擁するヒマラヤ山脈や



ヨーロッパのアルプス山脈もこの範疇にある。もう一つは鳥海山に代表される活火山である。世界の火山の最高峰は南米アンデス山脈のオホス・デル・サラド山であり、アフリカ大陸のキリマンジャロも活火山である。

須藤 茂氏は産総研OBであり、在職時には長年にわたって我が国の火山研究を先導してこられた。また、在職時代からアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでこられ、我々が目標とすべき研究者のお一人であった。実は、彼が2年前に出版した「旅客機から見る日本の名山」については、私がGSJ地質ニュースの誌上にご紹介させていただいた経緯がある（七山，2020）。今回はその続編として、舞台を世界へとスケールアップし、「旅客機から見る世界の名山」というタイトルの書籍を編著者としてまとめられた。本書の内容は単なる普及向けの機窓写真集の域を脱しており、少しマニアックではあるがGSJ地質ニュースの多くの読者の皆さまが関心を持たれると考えた。そこで、以下に本書の概要を皆さまにご紹介したいと思います。

本書では、編著者である須藤氏を含めた火山や地形分野の研究者や国際航業の地質コンサルタント技師からなる9名の筆者たちが分担して、世界の著名な名峰を主要な対象として、定期便の旅客機の機窓から撮影した世界の山々700座の写真を掲載している。ただし、“本書で使用される写真は定期便の旅客機から撮影されたもののみ使用”，という須藤氏の拘りがある。さらに、地質地形分野の専門家らしく、それらの山の成り立ちや地質などを個々にわかり



やすく解説している点が最大の特徴と言える。本書の目次は、以下の通りである。

はじめに

山の名前の表記について

山の高さの表記について

知っているとは便利なこと

山が何でできているか 外国の山の地質を調べる方法

山はどうして高くなったのか？

世界地図(索引図)

世界の火山の分布図

本編：(A) アラスカ・カナダ，(B) 米国本土，(C) メキシコ・中米，(D) 西インド諸島，(E) 南米，(F) ハワイ，(G) ニュージーランド，(H) 西太平洋，(I) オーストラリア，(J) インドネシア，(K) フィリピン，(L) 台湾，(M) 韓国，(N) 中国中東部，(O) インド・インドシナ，(P) ネパール・ヒマラヤ，(Q) 中国西部・カラコルム，(R) 中東，(S) ロシア・シベリア，(T) 東ヨーロッパ，(U) アルプス，(V) 南ヨーロッパ，(W) アイスランド，(X) アフリカ

技術的な問題(山の写真が撮れるかどうかは運次第 & 金次第)

おわりに

写真リスト

山名索引

本書のメインの内容は、本編に記載された世界各地のフライトごとの700座の山の機窓写真とその解説であり、その記述は160ページにもおよぶ。掲載されている写真の全てがカラー版となっている。巻頭には、“山はどうして高く

なったのか？”等について、初学の方にも解りやすい解説文、また、本編の牽引図として世界地図が付記されている。一方、巻末には機窓写真の撮影方法のノウハウなどが書かれている。また、詳細な写真リストと山名索引が掲載されており、辞書代わりに世界の名峰が直ぐ見つけられるような仕掛けになっている。全編を通じて、細部にわたり須藤氏の熱意や拘りが見てとれる。“おわりに”にも少し触れられているが、COVID-19禍のため、本編で手薄になっている地域の写真の補填も思うようにできなかった点は、たいへん心残りのことであろう。是非、この点も含めて、須藤氏による続編を心待ちにしたい。

なお、イカロス出版は、航空定期誌である「AIRLINE」の他、航空機関係の書籍やジャーナルを専門的に出していることで知られている。上述した「旅客機から見る日本の名山」も2年前にこの出版社から刊行されている。この2冊を合わせ読むと、GSJ地質ニュースの読者の皆さまにも、“機窓からの山の景観の楽しみ方”や“上手な機窓写真の撮影方法”をご理解いただけるようになると思う。私自身も、長引くCOVID-19禍が過ぎたら、直ぐにでも海外に出かけたいと思っている。早期にCOVID-19が収束し、再び安全で快適な世界旅行ができる生活に戻れることを、心から念じている。

文 献

七山 太 (2020) 新刊紹介 旅客機から見る日本の名山
美しい山々を機窓から楽しむ。GSJ地質ニュース, 9,
55-56.

(産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門 七山 太)